

第 24 期業績のご報告

(2019 年 7 月 1 日～2020 年 6 月 30 日)

2020 年 9 月 吉日

日本システムバンク株式会社

代表取締役社長 野坂 信嘉

当事業年度における経済環境は、上半期は穏やかな回復が見られた一方で、下半期は極めて厳しい状況にありました。上半期にあつては、個人消費の持ち直し及び企業の設備投資の穏やかな増加が見られました。対して、下半期にあつては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、個人消費及び輸出が急速に減少することとなりました。

駐車場業界におきましては、慢性的な駐車場不足により、都市部を中心として高い駐車場需要があるものの、上半期にあつては駐車場用地の賃借料の高騰、下半期にあつては新型コロナウイルス感染拡大の抑制を目的とした外出自粛の影響による駐車場利用者数の著しい減少により、極めて厳しい事業環境となりました。

このような状況の中、当社は「社員及び関係者の安全確保」という基本方針の下、売上原価及び販管費の低減や新規投資の縮小などを実施し、可能な限り利益の確保に取り組んでまいりました。

以上の結果、売上高は6,414,528千円(前期比102.9%)、営業利益は8,990千円(前期比5.8%)、経常損失は26,728千円(前期は97,014千円の経常利益)、当期純利益は26,548千円(前期は319千円)となりました。

事業区分別の業績は以下のとおりです。

【コインパーキング(以下C P)事業】

C Pシステム運営事業では、上半期は売上高が堅調に推移していたものの、下半期2月頃からの新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛の影響により、駐車場需要が著しく減少した結果、売上高が前年に比べ大幅に減少いたしました。その結果、売上高は2,871,464千円(前期比96.3%)となりました。

C Pシステム販売管理事業では、新型コロナウイルス感染拡大の影響はあったものの、上半期中の売上高が堅調に推移したことから、通期では増収となりました。その結果、売上高は3,340,908千円(前期比109.5%)となりました。

これらの結果、同事業全体の売上高は6,212,373千円(前期比103.6%)となりました。

【プロパティマネジメント事業】

プロパティマネジメント事業におきましては、当社所有の賃貸用建物2件を取り壊したため、減収となりました。この賃貸用建物を取り壊し後の更地については、1件を売却、1件をコインパーキングへの転用を予定しております。これらの結果、売上高は195,841千円(前期比85.0%)となりました。

事業別の売上高は次のとおりであります。

| 事業区別 | 売上高 | 前期売上高 | 前期比 |
|---------------|-------------|-------------|--------|
| コインパーキング事業 | 6,212,373千円 | 5,992,780千円 | 103.6% |
| プロパティマネジメント事業 | 195,841千円 | 230,271千円 | 85.0% |
| その他 | 6,313千円 | 9,697千円 | 65.1% |
| 合計 | 6,414,528千円 | 6,232,749千円 | 102.9% |
